

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

結句	轉句	承句	起句	詩題
鐘 ○	忘 ●	門 ○	書 ○	初春訪比叡山  (刪韻)
聲 ○	我 ●	掩 ●	朋 ○	
香 ○	寫 ●	殘 ○	相 ○	
靄 ●	經 ○	寒 ○	昵 ●	
是 ●	佛 ●	一 ●	訪 ●	
仙 ○	前 ○	境 ●	春 ○	
寰 ◎	坐 ●	閑 ◎	山 ◎	

香靄 寺のかすみ  
是仙寰 別世界

作詩日	平成二八年四月二五日	平起式	名前	牛山 知彦
-----	------------	-----	----	-------

文 し 下 み 読				
鐘 声 香 靄 是 仙 寰	我 を 忘 れ 写 經 し 仏 前 に 坐 す	門 は 残 寒 に 掩 わ れ 一 境 閑 な り	書 朋 相 昵 し み て 春 の 山 を 訪 ね る	初 春 に 比 叡 山 を 訪 ね る

その他のメモ

三月初旬に、書道仲間と比叡山延暦寺を訪れ、宿坊に泊まって、参拝・写経を行った時の様子を漢詩にしてみました。観光シーズン前のまだ雪の残るこの時期は、訪れる人もわずかで、静かな別世界でした。





神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
				紅 ○	小 ●	雲 ○	半 ○	春夜     (微韻)
				燈 ○	樓 ●	淡 ●	宵 ○	
				三 ○	歌 ○	半 ●	河 ○	
				兩 ●	絃 ○	空 ○	畔 ●	
				隔 ●	春 ○	隴 ○	往 ●	
				花 ○	靄 ●	月 ●	來 ○	
				微 ◎	裏 ●	飛 ◎	稀 ◎	

その他のメモ	読み下し文				作詩日	名前
		紅 <small>こうとう</small> 燈 <small>とう</small> 三 <small>さん</small> 兩 <small>りょう</small> 花 <small>はな</small> を隔 <small>へだ</small> てて微 <small>かすか</small> なり	小 <small>しょうろう</small> 樓 <small>ろう</small> 歌 <small>か</small> 絃 <small>げん</small> 春 <small>しゅん</small> 靄 <small>あい</small> の裏 <small>うち</small>	雲 <small>くも</small> は淡 <small>あわ</small> く 半 <small>はん</small> 空 <small>くう</small> 隴 <small>ろう</small> 月 <small>げつ</small> 飛 <small>と</small> ぶ	半 <small>はん</small> 宵 <small>しょう</small> の河 <small>か</small> 畔 <small>はん</small> 往 <small>おう</small> 來 <small>らい</small> 稀 <small>まれ</small> なり	

結		転		承		起		題 慨 世 歌	平起式 【侵】韻 名前 酒井三郎
青	○ △	世	◎ △	吾	○ △	江	○ △		
雲	○	路	●	羨	●	湖	○		
志	◎ △	嶂	△○	窮	○ ☆	破	◎ △		
遠	●	嶂	○○	途	○	辟	●		
激	●	人	○●	朋	○ ☆	幾	●		
哀	○	有	●○	盍	●	浮	○		
吟	◎	淚	●●	簪	◎	沉	◎		
青雲の志遠く、 哀吟を激す <small>ありきん</small>		世路嶂山、 人淚有リ		吾、窮途を羨み、 朋と盍簪をもつ <small>わかれ きやうと うらや ニうしん</small>		江湖、破辟して幾浮沈す <small>ニうニ ばへき</small>		讀み下し文 慨世の歌 <small>がいせい</small>	

「<sup>小</sup>概<sup>世</sup>の歌」 海井三郎

(説明)

今の世相を題にして歌ったが、……具体的に表現できなかった。本当は次のことも言いたかった。

(起) については、……経済の暴落変動や所得格差のこと。

(承) " ……最近大学生などが、エムズという政治的団体を結成したこと。

(転) " ……<sup>ひ</sup>非正規雇用の増大は、<sup>き</sup>「きんぐダム」が生まれ、女性は結婚しなくとも結婚できない。配偶者呼称も扶養できないこと。

(結) " ……日本の若い男子の約70%は二世に失業していること。

以上です。

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ		結句	転句	承句	起句	詩題
昨年五月に父が90歳で亡くなったが、その日は爽やかな5月の日だった。一年が過ぎ今年も爽やかな5月が巡ってきたが、兄弟で昔を懐かしみ、酒を酌み交わす		旧 ○	父 ●	水 ●	麦 ●	父逝旧懐
		懐 ○	逝 ●	冽 ●	秋 ○	
		弟 ○	一 ○	風 ○	清 ○	
		兄 ●	年 ○	薰 ○	昼 ●	
		酒 ●	初 ○	新 ○	碧 ●	
		杯 ○	夏 ●	緑 ●	空 ○	
		傾 ◎	再 ●	明 ◎	宏 ◎	(庚韻)
その他のメモ		読 み 下 し 文				作詩日
		旧きを懐かしみ兄弟で酒杯を傾ける	父逝きて一年初夏再び	水清く風薰り新緑明るし	麦秋清昼碧空宏し	H 2 8 . 5 . 1 6
						名前
						武田 一郎

結			転			承			起			題 春興	平起式 【支】韻 名前 辰巳佳樹
蒼	○	△	突	●	△	躑	●	△	春	○	△		
天	○	○	兀	●	●	躑	●	●	宵	○	○		
欲	●	△	士	○	△○	堤	○	☆	誘	●	△		
暮	●	●	峰	○	○○	塘	○	○	引	●	●		
月	●	●	微	○	○○●	紅	○	☆	来	●	●		
如	○	○	雨	●	●○	滿	●	●	潮	○	○		
悲	○	◎	意	●	●●	枝	○	◎	湄	○	◎		
蒼天暮人と欲月悲しむが如し			突兀たる士峰雨意を徴す			躑躑の堤塘紅枝に満ち			春宵誘引して潮湄に来らしむ			読み下し文	
			とら			てきんちく			こび				

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

結句	転句	承句	起句	詩題
偲 ○	日 ●	旧 ●	東 ●	猿島日蓮洞窟  (尤韻)
遠 ●	蓮 ○	軍 ○	京 ●	
弥 ○	仙 ○	要 ●	湾 ○	
生 ○	窟 ●	塞 ●	端 ○	
醉 ●	渚 ●	一 ●	蔚 ●	
暫 ●	崖 ○	園 ○	嶼 ●	
留 ◎	畔 ●	幽 ◎	浮 ◎	

語註・典故・作詞メモ  
 横須賀市の沖合、連絡船で十五分のところに緑が鬱蒼と茂る島(蔚嶼) 〓 猿島が浮かび、夏は海水浴客で賑わう。  
 江戸末期はペリー黒船を撃沈すべく台場を築き、明治初期はレンガ造りの西洋式要塞、大戦中は高射砲陣地の秘密基地。  
 現在は散策路が整備されていて、トンネルを抜けた北側のどん詰まりに「日蓮洞窟」がある。  
 これは海蝕洞で、弥生人が(横穴)住居として棲みつき、漁撈生活を営み海産物で内陸と交易したらしい。

その他のメモ  
 「日蓮洞窟」の由来は、日蓮上人が上総(千葉県中部)から鎌倉へ船出したときに台風にあつて漂流の末、この島へ漂着したとかの伝説。  
 そのとき、この洞窟で座禅を組んだのか??!!

読み下し文				作詩日	仄起式	名前
遠 <small>と</small> き <small>お</small> 弥 <small>や</small> 生 <small>い</small> を <small>い</small> 偲 <small>し</small> び <small>の</small> 醉 <small>え</small> いて <small>い</small> 暫 <small>し</small> 留 <small>と</small> まる <small>と</small>	日 <small>に</small> 蓮 <small>れん</small> 仙 <small>せん</small> 窟 <small>くつ</small> 渚 <small>しよ</small> 崖 <small>がい</small> の <small>の</small> 畔 <small>ほとり</small>	旧 <small>きゆう</small> 軍 <small>ぐん</small> 要 <small>よう</small> 塞 <small>さい</small> 一 <small>いち</small> 園 <small>えん</small> 幽 <small>ゆう</small> なり	東 <small>とう</small> 京 <small>きやう</small> 湾 <small>わん</small> の <small>の</small> 端 <small>はた</small> 蔚 <small>い</small> 嶼 <small>しやう</small> 浮 <small>う</small> か <small>か</small> ぶ <small>ぶ</small>	平成二十八年五月十七日	仄起式	原田睦夫
猿島日蓮洞窟						

氏名式 一八一三 名前二才加算(康隆)

讀み下し文

青嶽峰三姉妹

ブルー・マウンテン  
青山嶽峰三姉妹

雪	岩	三	化
雪	岩	三	化
特	稜	姉	石
足	瀑	妹	千
乾	布	傳	秋
青	仰	哀	彩
山	天	史	嶺
嶽	從		容
峰			

雪特足の乾青山嶽峰

岩稜瀑布天を仰ぎ従う

三姉妹哀史を伝える

石と化して千秋出嶺容を彩る

(14)

平成元年(1989)年三月末にオーストラリアを、シドニーの西に位置するブルーマウンテン国立公園の青嶽峰の雄大な景観で知られる。青嶽峰の白眉と三姉妹の姿がその昔の三姉妹の姿に魅せられた魔王の略奪を避ける為、歴史文をひけて岩と化した姉妹の姿が伝説に残る。

神漢連 九詩期会 詩箋 『七言絶句』

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
				悄○	雲○	風○	江○	漁舟偶感
				然○	外○	起○	辺○	
				遊○	月○	白○	曉○	
				子○	傾○	鷗○	闇○	(庚韻)
				望△	春○	波○	櫓○	
				郷○	已○	浪○	声○	
				情○	去○	驚○	鳴○	

作詩日

多岐 2010年

平 純 子

名前

古川 彌

その他のメモ

詩題の読み

読み下し文 江辺の曉闇に櫓声鳴り

読み下し文 風起りて白鷗は波浪に驚馬多く

読み下し文 雲外に月は傾き春は已に去りて

読み下し文 悄然なる游子望郷の情

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ		結句	転句	承句	起句	詩題
三浦一族の最後の地、新井城址を訪ねた。 三浦道寸義同と子の荒次郎義意の碑があり、 往時の勇士を弔うも、侘しい限りであった。 間道    抜け道 牙城    本丸	古 ●	惟 ○	一 ●	斜 ○	訪新井城址	
	碑 ○	有 ●	片 ●	通 ○		
	没 ●	風 ○	牙 ○	間 ●		
	字 ●	悲 ○	城 ○	道 ●	(灰韻)	
	覆 ●	敗 ●	安 ○	卻 ●		
	青 ○	亡 ○	在 ●	空 ○		
	苔 ◎	地 ●	哉 ◎	回 ◎		

その他のメモ

読み下し文					作詩日	平起式	名前
古碑字を没し 青苔に覆わる	惟風は悲しむ 敗亡の地有り	一片の牙城 安に在り哉	斜めに通ず間道 却て空しく回り	新井城址を訪ぬ	平成二八年四月		松本祐輔

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

結句		転句		承句		起句		詩題	
天 ○	濤 ○	房 ○	黄 ○	空 ○	浪 ○	総 ○	金 ○		犬吠埼  (先韻)
日 ●	碎 ●	半 ●	七 ●	色 ●	壊 ●	島 ●	曜 ●		
彩 ●	洋 ○	忘 ●	意 ●	虹 ○	上 ○	塵 ○	悠 ○		
鮮 ◎ ○	石 ● ●	縁 ◎ ○	然 ◎ ○						

五月のゴールでウィークを利用して、子や孫、総勢一四名で茨城、千葉への旅行を行った。茨城では雨に降られたが、翌日は朝方こそ雨模様だったが、どんどん天気が回復して、鹿島神宮、銚子港、犬吠埼へと快適な旅となった。犬吠埼では、低気圧が去った後ということ、強風が吹いていて、体が吹き飛ばされそうになりながら遊歩道を歩いた。遊歩道の傍の岩には波飛沫が高く上り陽の光が鮮やかだった。

その他のメモ

文 し 下 み 読				
犬吠埼	黄金の七曜意悠然たり	房総半島塵縁を忘る	涛浪碎壊す洋上の石	天空日色彩虹鮮やかなり

作詩日 平成二八年五月四日

名前

三浦 昭二

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
				何 ○	醉 ●	櫻 ○	黄 ●	
				擬 ●	時 ○	花 ○	鳥 ●	
				我 ●	喜 ●	杯 ○	酣 ○	
				身 ○	事 ●	盡 ●	歌 ○	
				欲 ○	醒 ○	繪 ●	飛 ○	
				白 ●	時 ○	春 ○	片 ●	
				頭 ◎	嘆 ●	愁 ◎	丘 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

その他のメモ				読み下し文				作詩日
				何 <sup>なん</sup> ぞ我 <sup>わ</sup> が身 <sup>み</sup> に擬 <sup>なぞら</sup> へん白 <sup>はく</sup> 頭 <sup>とう</sup> ならんと欲 <sup>ほつ</sup> す	醉 <sup>よ</sup> ふの時 <sup>とき</sup> は事 <sup>こと</sup> を喜 <sup>よろこ</sup> び醒 <sup>さ</sup> めたる時 <sup>とき</sup> は嘆 <sup>なげ</sup> く	桜 <sup>おうか</sup> 花 <sup>か</sup> 杯 <sup>さかずき</sup> 尽 <sup>つき</sup> きて春 <sup>しゅん</sup> 愁 <sup>しゅう</sup> を絵 <sup>え</sup> く	黄 <sup>こう</sup> 鳥 <sup>ちよう</sup> 酣 <sup>かん</sup> 歌 <sup>か</sup> する飛 <sup>ひ</sup> 片 <sup>へん</sup> の丘 <sup>おか</sup>	
							春 <sup>はる</sup> 無 <sup>む</sup> 常 <sup>じよう</sup> を憶 <sup>おも</sup> ふ	名前
								南上清一郎

仄起式

名前

南上清一郎





神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

結句	転句	承句	起句	詩題
薰 ○	勿 ●	浪 ●	蒼 ○	横濱港吟行会
風 ○	惱 ●	裏 ●	天 ○	
樹 ●	呻 ○	船 ○	碧 ●	
下 ●	吟 ○	廻 ○	海 ●	
美 ●	詩 ○	向 ●	無 ●	(麻韻)
人 ○	不 ●	酒 ●	邊 ○	
車 ◎	得 ●	家 ◎	涯 ◎	

語註・典故・作詩メモ

5月12日、横浜港で行われた神漢連の吟行会に参加。もらった拍梁体の一字は「車」。海で車には困った。詩語集により「薰風樹下美人車」の一句を提出。幸い、石川忠久先生の講評で○をもらったので、なんとかこの一句を使つて一首ひねり出そうと作つたのがこれ。残念ながら実際には美人はいなかった。○無辺涯：無辺際があるなら無辺涯があつてもいいのでは。

読み下し文				作詩日	平起式	名前
薰風の樹下 美人の車あり	悩む勿れ 呻吟して詩を得ずも	浪裏船を廻らして 酒家へ向かう	蒼天と碧海は無辺の涯	5月18日		山口 幸雄

その他のメモ

空青く海は緑で 果てがない  
波のまにまに 酒屋が見える  
あきらめろ 呻つたからとて詩はできぬ  
岸の木の下 美女が待つ

※吟行会は快晴、波静かで船も快適でした。その後宴会のかたわら石川先生が拍梁体の句を並べて全体の構成を  
されている姿が印象的でした。